

令和5年度 南魚沼市立石打小学校

<国際科・国際理解教育の指導の重点>

- ＊ 外国語に慣れ親しみ、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる
- ＊ 日本と外国の文化に興味をもち、世界に目を向けて意欲的に学習に取り組む姿勢を育てる

◇ 児童アンケート結果 ※肯定的評価（「とても楽しい」「楽しい」）

- ◎ 国際科で学んだ英語を進んで使ったり、外国のことを学んだりすることは楽しいですか （1学期…90.8%）（2学期…89.1%）

◇ 保護者アンケート結果 ※肯定的評価（「そう思う」「だいたいそう思う」）

- ◎ お子さんは国際科で英語を使ったり、外国のことを学んだりすることが「楽しい」と言っている （1学期…55.0%）（2学期…57.1%）

【考察】

- ・児童アンケートでの肯定的評価が1学期 90.8%、2学期 89.1%であり、学習意欲が高い。
- ・毎時の授業に、ペアやグループ対抗などのゲームを取り入れた活動をすることで、児童は楽しみながら学習に取り組んでいる。
- ・学級担任とALTが毎時の授業の進め方についての打ち合わせや役割分担を事前にしており、テンポよく授業を進めることで、児童は飽きることなく集中して学習していた。また、児童の反応の様子から、次時の方向性を確認することで、児童の実態に即した学習活動を展開することができた。
- ・国際理解教育では、国際大学の留学生の方から外国の文化や風習について見聞きしながら見識を深める場を全学年が設定した。日本とは異なる文化や食べ物、建造物などに驚きの声をあげたり、積極的に英会話で質問をしたりするなど、主体的に学習に取り組む児童の姿が数多く見られた。
- ・児童アンケートと比較して、保護者アンケートの肯定的評価の割合が低い。積極的な情報提供に努めるとともに、児童が家庭内で国際科の楽しさを表出するような学習課題や家庭学習を工夫する必要がある。

【学校関係者評価】※第3回学校運営協議会より

- ・小学校の段階では、外国の方と英語を使ってコミュニケーションをとることが楽しいという体験を多く積むことが大切である。
- ・最近の南魚沼市内や石打地区の観光客を見ると、以前にも増して、外国からの観光客が多い。これからの時代を考えると、英語能力の獲得は必要になるであろう。そのような背景を考えても、小学校段階からの英語教育をぜひ進めてもらいたい（話す・聞く能力の向上）。
- ・これからの社会では英語を話し聞き取る力、コミュニケーション能力を身に付けることが大切になってくる。授業でそういった力を身に付けることも必要であるが、地域でも外国の方とかかわる事業を企画するなど、工夫できることはたくさんある。
- ・英語の習得に関する保護者の関心は、アンケート結果をみるとそれほど高いとは言えない。児童に意欲をもたせるとともに、家庭へのアピールも必要である。

令和4年度 南魚沼市立石打小学校

<国際科・国際理解教育の指導の重点>

- ＊ 外国語に慣れ親しみ、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる
- ＊ 日本と外国の文化に興味をもち、世界に目を向けて意欲的に学習に取り組む姿勢を育てる

<自己評価>

・児童アンケートでは肯定的評価が1学期 95.7%、2学期 94.8%とともに高く、国際科で学習した英語を進んで使うことに楽しさを感じている児童が多い。大きな理由の1つとして、授業の初めに行う「フォニックス」の時間が挙げられる。英語の特徴的な発音を、動作を伴いながら正しく発音することができる。児童にとっては、楽しみながら正確な発音を学ぶことが自信にもつながっている。

・授業では、ペアやグループ対抗などのゲームを取り入れた活動をする中で、児童は楽しみながら学習したことを使ったり覚えたりすることができた。学級担任とALTが役割分担し、テンポよく授業を進めることで、児童は飽きることなく集中して学習することができた。

・国際理解教育においても活動を工夫することで成果を上げることができた。国際交流会では、国際大学留学生の出身国の文化を理解したり、授業で学んだ英会話を用いて留学生と会話を楽しんだりする児童の姿が見られた。

◇ 児童アンケート ※肯定的評価（「とても楽しい」「楽しい」）

- ◎ 国際科で学んだ英語を進んで使ったり、外国のことを学んだりすることは楽しいですか （1学期・・・95.7%）（2学期・・・94.8%）

◇ 保護者アンケート ※肯定的評価（「そう思う」「だいたいそう思う」）

- ◎ お子さんは国際科で学んだ英語を進んで使ったり、外国のことを学んだりすることが楽しいと言っていますか （1学期・・・64.7%）（2学期・・・64.7%）